

秋に初来日！キリル・ペトレンコの指揮で上演

# 豪華な布陣！

## バイエルン州立歌劇場

### 《タンホイザー》プレミエ

取材・文：中東生・堀内修  
Text: Shinobu Nakai / Osamu Horuchi  
Photo: Wifiged Heisl



#### Report

この秋、いよいよ話題の鬼才キリル・ペトレンコがバイエルン州立歌劇場を率いて初来日する。演目はワーグナー《タンホイザー》。それと同じプロダクションが、シーズン終盤となる5月に本拠地ミュンヘンで新演出上演された。演出はバイエルン州立歌劇場初演出となるロメオ・カステルツチ、タンホイザーに現代最高のヘルデン・テノール、フロリアン・フォークトを据えた豪華な布陣だ。

#### 演出は日本文化へのオマージュ？

昨年初頭に行われた「バイエルン州立歌劇場2016/17シーズン・プログラム発表マチネ」のときに、今シーズンのハイライト公演になると予想されたワーグナー《タンホイザー》が5月21日、初日を迎えた。

「ワーグナーからドイツ音楽を学んだ」と自ら振り返るキリル・ペトレンコは、当歌劇場でワーグナーのレパトリリーを着々と増やし好評を博しているが、《タンホイザー》も明確なイメージをもって、独特の世界を構築していた。ペトレンコの左手は最初のフレーズから柔らかに舞い、エレジーのように美しくも切ない歌心を聴かせたと思うと、クレッシェンドさせて膨らませるだけで、ワーグナー独特のアドレナリンを放出させる。

序曲が演奏されている間に、上半身裸のバレリーナたちが弓矢を持って登場するが、最初は西洋のキューピッドのように見えていた彼女たちの、着けている柔らかな衣裳が袴のように見えて来たころ、その統制された動きが弓

道をおわせた。1年ほど前に、演出の

ロメオ・カステルツチが「《タンホイザー》で日本に行かれるのを楽しみにしている」と、公表前の日本ツアーについて話してくれたことが思い出される。この演出は日本ツアーを念頭に入れたもので、日本文化へのオマージュに違いない。羊飼いの歌の場面では、「これと同じ構成の有名な日本画がありますね」と隣の紳士が耳打ちしてくれたり、歌合戦のシーンでも、歌手たちが道着のような出で立ちで地下足袋まで履いている。この舞台を貫いている静謐さがペトレンコの求める繊細な音楽とよくマッチしている。

#### 光るキャストたち

そのうえで、細やかな歌い回しのできるキャストが光っていた。クラウス・フロリアン・フォークトはワーグナー歌いとして名を馳せているが、タンホイザーは初役だという。いつものように、多少かすれ声とも聴こえるような歌い出しや、声のフォークスの当て方が自然過ぎて稚拙に聴こえてしまうような部分もあるが、声を鳴らすべきと



バイエルン州立歌劇場《タンホイザー》から。弓矢を持った上半身裸のパレリーナたちが登場したシーン

ころではしっかりと鳴らせるパワーと、長丁場の終盤でもピアノシモで歌える健康的な発声で、この役を完全に自分のものにしていった。アニヤ・ハルテロスは、当歌劇場の古いプロダクションでもエリーザベトを歌っていたとあって、安定した役作りと、終始柔らかな歌声が心地よかった。ヴェーヌスのエレーナ・パンクラトヴァやヘルマンのゲオルク・ツェッペンフェルトも豊かな声と細やかな表現を両立させていたが、今宵一番光っていた歌手は、ヴォルフラムを歌ったクリスティアン・ゲルハーヘルであろう。プレミエ・パティでニコラウス・バッハラール総裁が「すべてのバリトンが歌いたいと思うこの役を、ここまで心を伴って歌える人はいないだろう」と賛辞していた通り、瑞々しい声と、ドイツ語の子音捌きの美しさで、ドイツリートのように言葉を大切に表現していた。第3幕の《夕星の歌》と、そこにいたるまでの部分は、もう少し朗々と歌うのを聴きたかったが、ヴォルフラムの心情を優先させたのであろう、包み込む愛情とやるせなさが切々と伝わる歌唱であった。

### 9月に日本で上演

また、合唱が支えて音楽を膨らませる力も大きかった。ペトレンコが子音の切れ目で指揮で表現している姿が見受けられたが、「子音や符点など細かいところまで正確にリズムを立てて歌わせることに心を砕く指揮者なので、合唱指揮も相当気を遣って準備した成果」だと、合唱団員が教えてくれた。



カーテン・コールに応えるキリル・ペトレンコ

時間の雄大な流れがメイン・テーマであるこの演出には、不可解な部分も多少あり、ブーイングも少なからず聞こえたが、ロシア人の指揮者とイタリヤ人の演出家を迎えることにより、ドイツの文化遺産であるワグナーの音楽が、国境だけでなく時空も超えた普遍の芸術になっていた。9月に日本で上演された時、日本の観客にはどのように受け入れられるだろうか。(中)

#### ■公演情報

##### バイエルン州立歌劇場日本公演 《タンホイザー》

〈日時〉9月21日15時／25日15時／28日15時  
〈会場〉NHKホール  
〈指揮〉キリル・ペトレンコ〈演出〉ロメオ・カステルッチ〈出演〉クラウス・フロリアン・フォークト(タンホイザー)、マティアス・ゲルネ(ヴォルフラム)、アンネッテ・ダッシュ(エリーザベト)、エレーナ・パンクラトヴァ(ヴェーヌス)、ゲオルク・ツェッペンフェルト(領主ヘルマン)、他  
〈問合せ〉NBSチケットセンター 03-3791-8888  
<http://www.bayerische2017.jp/tannhauser/>